

# ほっぷ・ステップ・Jump!

(保っ父) 1996.5.7 Vol.24 発行:北海道の子どもと保父の会

## 巻頭言

新年度のあわただしさも一息ついた今日この頃。男性保育者同志諸君には健勝にてご活躍のことと思います。

近ごろあまり顔を合わせて盛り上がる機会が少ないようで、寂しさを感じています。若い人たちだけがどこぞで集まっているのかと思うとそうでもないようで、家庭持ちが多くなってきて家庭と仕事と「他のこと」(保父の会など)の調和が難しい人が多いのかなどと思っています。此の辺で一堂に会する機会が欲しいものです。ここ数年、男性保育者の採用も増えてきているようですし、家庭を持って子どもをもって保育にあたっているメンバーが増えてきていることは、この会に集うものたち総体として、豊かさを感じさせます。

保育界は、特に制度的な側面を中心にして変化の多い状況ですが、子育ての理・保育の意味についての探求は、とりわけ保育現場の有為の士の孤軍奮闘に頼っているばかりです。制度についても関心を喚起しなければならないとは思いますが、社会の総意をもって子どもの育ちが大事にされ、その子その子の育ちに則した「保育」を行うことがどんなに重要で意義深いことかということに社会的評価を与えねばなりません。この間の福祉制度の変化の過程でもとりわけ「マンパワー」問題が論じられていますが、どれほど此の職に就くものがその「意志」と「姿勢」を大切にしつつ存在機能しているのかを理解しているようには思えません。

現場ではなかなか言にくい理想論を侃侃諤諤ぶつけ合った頃が、此の会にはありました。ともすれば周りから否定的に遇されたメンバーは、職としての不安定より職の意味・やりがい・存在意義などを、追及しようとしてきました。今、制度が揺れているこの時に、不遇にめげず頑固に「理想を語り合いながら」、子どもと家庭と「職としての子育て」を続ける男たちが**層として存在する**ことの意味合いと責務を、後に続く人たちと共に語り合わなければならないのではないのでしょうか。

小田 進一

# 風に吹かれて

## 保父修行物語 24 第二はとポッポ保育園 船戸敬悦

リュックサックを背負い、片手にスケッチブックを抱えて、私は宮崎駅のプラットフォームに降りていた。十年ぶりの景色だった。「かわっていないなあ」駅前広場にはワシントンアパームの並木がつついている。まさに南国だった。私はこの土地で様々なことを学んだ。大学生生活もそうだが、生涯わすれることの出来ない人との出会いがあった。

この土地に根づいて画家として活躍しているF氏であった。創作活動をしなから、現代っ子センターを主宰し、子ども達に絵を教えていたのだった。私は十年前にF氏のアトリエの門をたたき弟子にしてもらった一人だった。Fさんは今も元気だろうか？会いたいという気持ちが先走る、アトリエは大淀川のほとりにあった。久しぶりのアトリエ、私はここで油絵を学び、F氏の補佐をしながら子ども達の絵画指導をしていた昔を思い出していた。白い二階建てのアトリエの前に無造作に置いてあるハーレーダビットソン。昔のまま。私は少し緊張しながらアトリエのドアをノックした。「どちらさまですか？」奥さんの声だった。「あの一船戸です」「えっ船戸さん？」「あらーひさしぶりー、どうしたとねー」久しぶりに聞く宮崎弁にホッとする自分を感じていた。奥からF氏が出てきて、私を中に入れてくれた。私は保父を辞めたこと、今リュックを背負ってスケッチ旅行をしていることをF氏に話した。私はF氏の自慢のヒゲに白髪が目立っているのが気になっていた。F氏が言った。「船戸さんの大学時代の卒業論文とってあつとよ！」「えっあの、こどもの遊び場論ですか？」「そーよ」

私は驚いていた。十年前に書いたあの卒論だった。物を創るということは、それを形として後生に残すこと。F氏の生き方もまさに画業を通して、自分の潜在能力を引き出し、自分をアピールし、人に伝え、時代の先端を担った芸術を創りあげていく仕事だった。

その晩F氏は、大学の後輩や、弟子達を集めて食事会を開いてくれた。昔話しながらF氏が私に言った。「どうせ、日本をまわるなら、都井岬のK氏に会ってみんね」……「会ってみるだけの価値はある」と……私はF氏の人柄に感謝しながらも、久しぶりに飲む焼酎に酔っていく自分を感じているのだった。

以下Vol.25へ続く……



## 札幌ベビールーム20周年記念行事無事終わる

昭和52年2月に設立しました、札幌ベビールームも20周年目に入る年になりました。設立の主旨は、保育時間等で問題があった公立保育所の不十分さをカバーするためでした。当初は、私と家内と、もう一人の保母と3人でのスタートで、もちろん園児は0。将来に対する不安もありましたが、28才だからできたのでしょうか。途中、運営困難な時代もありましたが、なんとかここまで存在し続けることができました。現在では、エンゼルプランの**おかげ**(???)で、「保育時間等の問題」だけでは存在していけない時代になりましたが、今春も、6月時点では定員になる現実をみると、私達の存在価値はあると信じています。

写真は、2月11日の20周年記念行事の時のものです。食堂バザー・物品販売バザー及び、女性センター大ホールでは記念公演として、沖縄バンド南ぬ風の沖縄音楽と人形劇団「ばびぶ」の人形劇をみてもらいました。準備が大変だっただけ、無事終わった時は、ホッとするやらうれしいやらで感激一杯でした。これからも、民間保育所として頑張っていこうと思っています。

札幌ベビールーム 大泉善夫



## 次回例会のお知らせ

次回例会は5月11日(土)のPM7～行います  
場所は、幌北中央が三村氏の都合で使えず、次

白石区本通16丁目南4-26  
札幌市職員会館(リフレサッポ口内)  
866-3811  
2F「かしわ」

右図参照

リフレサッポ口位置図



## 4月例会報告

7人が集まり、行いました。

久しぶりに鈴木さんが来てくれ、「**今後も**

**積極的に参加したい!**」と力強く語ってくれました。

小田氏の資料をもとに『児童福祉法の見直し』の動きについて、そこから広がって  
“**保育の専門性について**”、“**保育者の資質について**”と、ジュース(幌北では  
そういう)の勢いも手伝って、尽きることなく話されたのでした。

特にここで披露すべくものはないのですが、5月以降も継続していきますので、興味のある方は、ぜひ参加して下さい。

## 今後の例会のスケジュール

1996年	5/11	リフレサッポ口
	6/ 8	幌北中央(予定)
	7/13	鶺鴒川での例会(予定)
	8/10	幌北中央(予定)
	9/14	”
	10/12	”
	11/ 9	全道交流会(予定)
	12/14	幌北中央(予定)
1997年	1/11	”
	2/ 8	”
	3/ 8	”

制度の勉強会(飲みながら)



## その他

外部の人を招いての勉強会では、劇団さっぽろ演劇事務局の『金田一ひとし』氏と連絡をとっています。

今後の例会に入れていきますので、ご期待下さい。

## 会計より連絡事項

- ・平成7年度までの会費未納の方が、あと9名います。今月中の振込をお願いします。
- ・平成8年度の会費(1,000円)は、5月1日から受付を開始しています。下記口座に振込か、例会手渡しでお願いします。

振込の場合の口座

北海道銀行  
口座番号 普通口座  
口座名義 北海道子供と保父の会

## 事務局より

会員・非会員を問わず、原稿・エッセイ・漫画・写真・趣味発表・etc(何でもあり)

を募集しております。

皆様の投稿がたくさんあれば紙面もカッコつくと思うのですが?・・・今はカットでごまかしている状況です。何でも投稿してえ～



事務局

001 札幌市北区北20条西3丁目19番地

幌北中央保育園内

北海道の子どもと保父の会

011-716-1841 Fax 011-716-1852

Night Te&Fax (011-736-0500 (札幌市))